

# UA神奈川学習センター はるだより

通巻第38号

2009年4月発行

発行:放送大学神奈川学習センター 〒232-0061横浜市南区大岡2-31-1



大岡川の桜(観音橋付近)

## 目次:

放送大学神奈川学習センターへの期待	所長 渡辺 慎介	2
神奈川学習センターに集う皆さん、ありがとう	前所長 濱田 嘉昭	3
学習センターニュース (学位授与式/入学者の集い/公開講演会)		4~5
Kーサポート チーム紹介		6~7
神奈川学習センター所属サークル紹介		8~13
学生からの投稿		13~15
学習センターからのお知らせ		16

## 就任のご挨拶『放送大学神奈川学習センターへの期待』

### 神奈川学習センター所長 渡辺 慎介



4月から、神奈川学習センター所長に就任しました。卒業した大学にそのまま就職し、そこで定年を迎えましたので、今回が私にとって初めての転職経験になります。そんな意味もあって、学習センターでこれから取り組む仕事を楽しみにしています。

勉強は若い学生時代にするものだ、と誰もが考えがちです。しかし、実際は、そうではありません。社会に出ると、日々新たな仕事、未知の仕事に出くわします。その仕事を適切に処理するには、経験豊かな先輩に教を乞うたり、本を調べたりしなければなりません。あるいは、企業が用意する各種の研修プログラムを通して、勉強を続けます。特定の先生に特定の授業を聞く学生時代と異なり、社会に出からは時と場合に応じて、さまざまな人から多種多様な事柄を学習しているのです。だから、社会に出て働く中で、実は、ずいぶんと勉強を続けているのです。仕事をするのは、何らかの新しい価値、独創的な価値を作り出すためですから、学習の継続は必要不可欠なのです。

企業の定年は、60才であったり、65才であったりします。それに対して日本人の平均寿命は、男性が80才に迫り、女性は85才を越えています。60才で定年を迎える男性は、定年後に平均して20年生き続けます。その間、どのように生きるのでしょうか。趣味を楽しむ人、地域のボランティアに取り組む人、さまざまです。定年後も何かに熱中することによる脳の活性化は必要です。趣味もボランティアも、その活動の中で新しい体験とそれに伴う喜びをもたらしますから、まちがいなく脳を活性化させます。新しい知識を獲得しようとする意欲や獲得した喜びもまた、その活性化に役立ちます。知的・精神的活動を支える脳の働きと肉体的な活動を支える体の働きは、まったくの別物ではなく、互いに影響を及ぼし合います。昔から、健全な精神は健全な肉体に宿る、と言われていますが、その逆もまた真であり、健全な肉体は健全な精神を宿す、と言い換えることも可能でしょう。定年後も健康な生活を維持するためには、澁刺とした脳の働きによる健全な知的・精神的活動が必要なのです。

放送大学は、10歳代から90歳代に至る幅広い年齢層の学生が、新たな知を吸収する意欲に燃え、集っています。学習によりスキルアップを目指す人、資格の取得を目指す人、豊かな教養を身につけようとする人、知的好奇心を満足させようとする人、多様な目的をもつ人がおられます。年齢と目的の多様性が放送大学の特徴でしょう。多様性を大学としていかに生かすか、それがこれからの課題かもしれません。

神奈川学習センターの課題としては、地域とのさらなる交流を挙げたいと思います。地元・弘明寺、南区との連携、横浜市や神奈川県との連携、それらを課題として持ち続けたいと考えています。

もう勉強することはないと考えるようになったなら、その人きっと自分の傲慢さを隠せなくなるでしょう。もっと勉強しなければと考える人には、どこかに謙虚さがうかがわれるはずで、年代に関わりなく、人は学びによって成長します。神奈川学習センターが、これまで以上に生き生きとした学びの場となることに期待しています。

## 神奈川学習センターに集う皆さん、ありがとう

前所長 濱田 嘉昭

私はこのたび神奈川学習センター(KSC)所長としての3年間の任務を果たし、幕張の本部に勤務地を移します。KSCに集い、学び、活動する皆さんに一言ご挨拶と、心よりお礼を申し上げます。

私は放送大学には比較的長く勤務しており、放送大学の学生の皆さんのことはよくわかっていたつもりでした。もちろん、統計に表れるさまざまな学生属性や、卒業研究および修士論文の指導、面接授業を通じて知りうる一般的な特徴の認識や印象は今も大きく変わるものではありません。一方、所長としての着任前の知識としては、KSCはサークル活動が盛んであるという程度でした。もちろん、これはそのとおりでした。しかし、これらの活動を支えている皆さんの個々の顔が見え、さまざまな機会に声を掛けていただきながら、徐々に醸成された私の印象は、データや伝聞で知っていたことと大きく異なります。



それぞれの個性をもった皆さんが、KSCという場所、舞台上で出会いの関係をもちながら作り上げていった独特の雰囲気あるいは文化があるということです。たとえば、小学校や中学校で同じ学年にもかかわらず、クラスが編成された1, 2年の後ではクラスの雰囲気が大きく異なってくることは、私自身が児童・生徒として経験したことですし、皆さんも同じ意見ではないでしょうか。どんな集団も、その構成員の特徴と日常的な触れあいの中で、それぞれの個性を前提にしつつも、個を越えた集団としての雰囲気が創造される証拠だと思います。難しく言えば、要素が結び合って、システムあるいは上の階層を作る場合、要素に還元されない論理が形成されるということでしょう。これこそが文化の1つであり、生涯学習を基本的な理念とする放送大学の目指すところのものでしょう。それがKSCに既に見事に実現されていたということです。

放送大学は全国から素晴らしい教授陣を招いて、放送授業と面接授業を展開しています。これは、その時代の最高の知識をわかりやすく、市民に開放することを大きな目標とし、それにより、さまざまな課題を抱えるこの困難な時代を生き抜く知性を醸成すること、当面の課題をもつ市民のキャリアアップに資することなどを目指しています。一方で、生涯学習というのは、特定の専門知識を教授すること、獲得することだけが目的ではないと思います。既存の大学を卒業した人、さまざまな職業に従事している人、あるいは一線での指導的な役割を果たし、新たな知識の地平を目指す人など、多士済々の人々が集まっているところが放送大学です。この人たちと教員が既存の学問体系を越え、互いの経験や知識をもちよって、新たな文化を創造することが“生涯学習”ではないでしょうか。

これまでの3年間、私がKSCの皆さんに発したメッセージは、「出あい、触れあい、学びあい」でした。また、以前の「センターだより(35号)」で、ポーロニャ大学型というのを書いたことがあります。その精神は以上に述べたことの別の言い回しです。KSCのサークルに集う皆さんは互いを高め合う能力を発揮し、活動を実践中です。また、この2年間に展開したK-サポートの各チームの皆さんも、全国の学習センターの手本となるような実績を残されました。これらのグループには入ってはいない皆さんの中にもたくさんの優れた方が学習センターに来られていることを知っています。

このKSCでの活動の一部は、他の学習センターにも知られており、学長をはじめ本部の多くの教職員に熟知されています。私はそのような活動を報告するたびに、KSCの皆さんの顔がはっきりと脳裏に映りました。そして、そのことを誇りに思い、活動に参加された皆さんに、改めて心から感謝を申し上げたいと思います。KSCの活動がさらに活発になり、高品質の文化になることを期待しています。

濱田嘉昭

## 全国の空に響け～学位授与式～

放送大学神奈川合唱団 赤松 孝子

平成20年度学位記授与式の学歌の合唱に参加できたことは感無量です。昨年1月突然神奈川合唱団だけで学歌を歌って頂けませんかと大学の教務課からお話をいただきました時には11名の団員だけでは大きなNHKのホールではどうにもならないと思ってお断りいたしました。今年こそ私たちの力で何とか出来ないものかと思ひ実行委員会にご相談をしましたり、サポーターチームのお力をお借りしましたり、放友会の方々のお協力をいただきまして28名の団員になりました。普段テレビの中で見慣れている先生。アナウンサーの方々教務課の職員、同窓会の役員の方々と総勢56名の大きな合唱団になりました。NHKホールの舞台の上で卒業される皆さんと一緒に歌いながら見えない友がここに見える友にかわって行くのを心に感じた次第でした。これからは合唱団員だけでなく学生の皆さん全員が学歌を合唱できましたら素晴らしいものになるのではないのでしょうか。



29日副学長の岡部先生からメールをいただきましたのでご紹介いたします。「合唱終了直後、理事長、学長を初め、皆様から、やはりCDより、生の方がよかったと、たくさんのお褒めの言葉をいただきました。又式を仕切っていた放送関係者か

らも良く響いて良かったと言葉をいただきました。皆さん落ち着いて歌っておられたのが何よりだったかと感じました。また、ピアノを担当いただいた疋田さんにも大いに乗って演奏されたそうで殊勲賞ものですね。これについても、多くのお褒めの言葉を伺っております。歌われた方、ピアニストのみならず、陰ながらバックアップをいただきました方々にこの場をかりて、お礼申し上げたいと思います。]以上が岡部副学長のお言葉を原文のまま記載いたしました。



NHKホールには、全国各地から学部と院の卒業生が集まり、晴れやかな熱気に包まれた。

その後先生方から感激のお便りを続々といただきました。村松祥子先生、今日は道を歩いていても‘あまたの星々の中の‘と口ずさんでしまいました。その他にも宮本みち子先生、職員、アナウンサーの皆さんから感動しました。とお便りをいただきました。感動を分かち合えたと言う事なのかと感じました。後になってしまいましたが、神奈川合唱団がNHKの舞台に立てる様に影から応援して下さいましたのはセンター長の濱田先生だと伺っております。濱田先生有難うございました。学習センターの皆様のご協力に感謝申し上げます。

(右写真)神奈川の吉田さん、宮下さんが全専攻卒業生として学長表彰された。



## 入学者の集い

平成21年度1学期神奈川学習センター入学者の集いが、4月5日(日)神奈川学習センター第8講義室で開かれました。

今月着任された所長の渡辺先生は、桜の花を手に持って新入生へお話をされました。



会場には、超満員の170名を越える新入生が集まり熱心にお話に耳を傾けていました。今回は、学習センター事務室のご配慮と学生団体の協力により、開式から学生団体の紹介まで一体感のある進行で、お昼にはすべての行事を終えることができました。また、始動して一年が経過したチーム制サポーター

の正式名称が「K-サポート」と発表されボランティア学生が新入生に紹介されました。午後には、学習相談チームによる学習相談会も開催され、6名の学生が相談に訪れて卒業までの単位の取り方などを相談していました。式終了後の学生サークルの紹介は、規定時間を設け全部で30分ほどで終了。入学者のみなさんは、帰路につく方、学習センター窓口で学割をもらったり、見学したり、興味のあるサークルの例会を覗いたり、放送大学への期待に胸を膨らませていました。新入生のみなさん神奈川学習センターで充実した学生生活をお過ごし下さい。



## 吉田光男教授講演会

神奈川学習センターの学生がつくる学園祭実行委員会、フェスタ・ヨコハマ実行委員会による公開講演会「隣の文化とつき合うことー歴史を通して見た韓国との交流ー」が、吉田光男放送大学教授(東洋史学)を講師にお招きして2月28日(土)に、神奈川学習センター第8講義室で開催されました。

冬の曇り空にもかかわらず。会場には、約80名の学生が集まりました。



先生が研究を始められた頃のお話から始まり。写真を使って韓国と日本の歴史的な話へと繋がってゆきました。先生の熱弁で知らないうちに講演は30分も超過していました。



講演終了時の花束贈呈

午後には、神奈川同窓会主催の映画鑑賞会が開かれ、こちらはかつてないくらい盛況でした。夕方からは、吉田先生を交えての懇親会もあって一日学生、先生との交流の輪が広がりました。

## 「学習支援」チーム

平成20年4月に手探り状態で始めた学習相談会は、面接授業のある土曜日と日曜日の午後、談話室の一角で行われ、1年間で合計38回開催されました。(第1学期には20回、第2学期では18回)。相談に訪れた学生は両学期合わせて57人でした。その学生の多くは放送大学にかなり長く在籍している人たちと思われ、たぶん学習上で一番困っていると思われる新人学生からの相談はきわめて少数でした。

主な相談内容は、第1学期では、いくつかの公的資格取得と大学院入学に関する相談が多く、第2学期は、上とはやや傾向が異なり、3月の卒業を控えてか、卒業に必要な単位数や卒業研究に関する相談が多かったです。残念なことに、卒業に124単位必要なことは知っていても、面接授業や外国語の単位数についての卒業要件を理解していない人がいました。また、卒業研究を履修するには前年の8月に通信指導を受けておくことを知らない人が多くいました。

これ以外に、神奈川県や横浜市主催の通信教育フェ

ア、学習センターでの大学説明会などでも学習相談会を開催し、新規学生勧誘のための学習センターの広報活動にも協力し、新入生獲得に成果を上げたと考えています。

平成21年度第1学期においても、4月18日(土)から6月28日(日)の土曜日と日曜日に(ただし5月3日は除きます)、午後0時半から3時40分頃まで、学生談話室で行いますのでぜひご利用ください。今年度は上のような相談以外に、英語学習で悩んでいる人たちなどへの支援も考えますので、どうぞ希望をお寄せください。



談話室での相談風景

## 「バス研修・行事サポート」チーム

私たちは、毎年秋に行われている「学生研修旅行」の計画作成には関わっています。

昨年は、10月に“神奈川県をもっと知ろう(県西部)”を研修のテーマにして、二宮金次郎の業績を展示した『尊徳記念館』と生家、名主の家『瀬戸屋敷』、環境に配慮した『アサヒビール神奈川工場』を見学してきました。

私たちはこの研修旅行を「研修旅行に参加して、気軽に話し、挨拶できる仲間、学習について相談できる人などができたらいいな」との思いで企画をすすめてきました。今年度も同じ思いで、楽しい企画をしたいと話し合いを始めました。

たとえば、

- ・三浦半島コース 城ヶ島 三崎からソレイユの丘 横須賀人文自然博物館
- ・箱根コース ポーラ美術館 箱根湿生花園 阿弥陀寺
- ・山梨コース ワイン工場 山梨県立美術館 恵林寺 笛吹川フルーツ公園

- ・静岡コース 浜松市楽器博物館 東海大学海洋科学博物館 登呂遺跡(改築中)

こんなところが今年の候補地としてあがっています。あくまでも構想ですので日程的に可能かは考慮されていません。それぞれについて詳細な中身を調査し、旅程をつくってみないとだめですね。他にももっといいコースが出てくるかもしれません。皆さんからの提案もいただけたらありがたいと思っています。

そこで学生の皆さんにお願いします。あなたもサポーターになっていただけませんか。みんなで楽しい学生研修旅行をつくっていきましょう。学生生活をこんな角度から楽しんでもいいと思いますがいかがでしょうか。



アサヒビール神奈川工場にて

## サポーターボランティア「地域連携チーム」

### 1. 「放送大学神奈川学習センターウォーキングの会」

昨年11月、「放送大学神奈川学習センターウォーキングの会」は初めて 地域の方々に向けたウォーキングを開催しました。サポーターボランティアの「地域連携チーム」は「開港150周年150人南区ウォーキングの会」を立ち上げ、地域の方々や学生に参加・協力を呼びかけ、一からすべて手作りで準備しました。地域の方と放送大学生・先生を合わせて16名がリーダーとして応募してくださり、協力していただきました。リーダーはウォーキングのガイド役を勤められるよう勉強会、観光ポイントの確認、資料作りなどを行い、準備を済ませ、ドキドキしながら当日を迎えました。当日はよい天候に恵まれ、センター所長・事務長の参加を得て、総勢80名程の参加者となり、8グループに別れ、放送大学の名入りのハッピー隊を先頭に観光ポイントを巡りながら、大岡川の桜並木、趣のある紅葉のした、大岡川を下っていきました。進行していくうちにドキドキもすっかり落ち着き、リーダーも参加者も一体となって秋の一日を存分に楽しみました。今回のウォーキングの特徴は、地域の方々との交流と、事前学習を行ってコースの予備知識を備えることにありました。さらに、ウォーキング指導とストレッチ体操で健康面から知見を得ること、またその上でウォーキングに出発したことも特色になりました。解散地点で何人かの方に、次回はいつ？と聞かれるほど好評でした。また、アンケート結果でもかなり良い評価をいただきました。たとえば、「事前に説明があり、大変勉強になった」、「普段何気なく通りすぎていたが歴史的足跡を知ることができ、いろんな人とふれあい有意義であった」、「身近なところから気付きがあり、町の歴史を感じた」、「国大の先生のストレッチがよかった」、「資料が充実していて説明もわかりやすかった」などの感想が寄せられました。このような結果を受けて、本会は2009年度もウォーキングを行うことにしました。今回の解散地点は、運河途中の横浜橋通り商店街そばの大通り公園でしたが、この先の海まで行きたいとの要望を受け、「水路を通して、横浜の交通・運輸の発展状況を知る」などをテーマに蒔田公園から中村川を下り、海へ出て、横浜公園で解散するコースを考えています。昨年の経験から、今年度は調査・資料作りからリーダーと共に、力を結

集させ、さらに充実したウォーキングを提供したいと考えています。参加者数は80名程度で、11月7日、土曜日を予定していますので、面接授業等考慮して活動計画を立てていきたいと考えています。今年度から「ウォーキングの会」の名称は「放送大学神奈川学習センターウォーキングの会」と改称しました。一緒に「ウォーキングの会」をやりませんか？ウォーキングコースや観光ポイントを調べ、知らなかったことを発見するのは楽しいです。共にウォーキングの準備やリーダーを行いたい方は、神奈川学習センター窓口でサポーターボランティアを申し込み、「ウォーキングの会」に入る旨を伝えてください。

2. 「社会文化施設との地域連携」—地域との循環的つながりを目指して— 横浜市や神奈川県社会文化施設、研究所、公共団体などとの連携を通じて、放送大学生の学問を高めようと、まったく新しい試みを行っています。目指しているところは、ひと言でいえば、「知識循環」ということです。大学と社会との間に、さまざまな関係を結び、知識に関する循環システムを作用させようという試みです。わたしたちが力を入れている地域連携活動は、横浜市にあります社会文化施設（横浜開港資料館、横浜歴史博物館、横浜美術館、都市発展記念館、ユーラシア文化館）と提携して、面接授業を開設する活動です。こちらはサポーターばかりでなく、センター所長や職員の方々にもたいへんな尽力をいただいて、地元発信型の面接授業を作りました。ちょうど昨年は横浜開港150周年の前年に当たりましたので、これに合わせた記念講座ということで企画を練りました。おかげさまでたいへん好評で、募集定員の2倍以上の方々から申請いただきました。「知識循環」の特色は、横浜の地域文化のなかに埋もれている貴重な知識を発掘し、大学以外の現場での講義を新たに取り上げる点にあります。いずれにしても、まだまだ2年目ですので、これからも新たな工夫を付け加え、学生の方々のアイデアや意見を盛り込みながら、進めていきたいと考えています。2009年度第1学期と第2学期には、開港資料館、歴史博物館、神奈川県立公文書館などとの提携を考えています。ぜひ積極的にご参加ください。

## 「学習センター機関紙の編集」サポーターチーム

機関紙の再刊に向けて編集サポーターチームが発足し、たくさんの方々のご協力、「UA神奈川学習センター夏だより」を再刊第1号として刊行することができました。その後「秋だより、冬だより」を刊行し、今回の「春だより」が再刊第4号になります。（センターロビーに配備しておりますので、ぜひご覧ください）皆様に愛される機関紙として、これからも年4回のペースで発行するべく、編集委員一同頑張っております。

それにしても、センター・スタッフと学生そしてOBの方々の協力無しでは実現できませんので、今後とも更なるご支援とご協力の程よろしくお祈りいたします。機関紙の内容については、編集会

議で検討を重ねておりますが、編集部の方力不足で、読者の皆様にかかわらずご満足いただいております。編集のコンテンツにはいろいろな切り口があった方がよいと考えております。センターからの広報はもちろんのこと、例えば紀行文、エッセイ、学生生活etc. を対象に考えておりますが、その他にもご意見やご要望がございましたら、ぜひ下記アドレスにお寄せ下さい。

皆様からのご提案を心待ちにしております。

アドレス:ksupport@u-air.ac.jp

佐々木

## 神奈川放友会

神奈川放友会では、新入会員の入会を心より歓迎いたします。

今回「神奈川放友会」サークル紹介についてQ&Aの形で纏めました。

Q;放友会とは何の会ですか？

A;「交遊を楽しみながら放送大学で学習を続ける会」です。

Q;どんなことをしていますか？

A;次のように多彩な催しがあります。

「月例会」等で学習に関する研修、諸活動の紹介、会員の研究・論文の発表等「パソコン勉強会」年2回、うち春はエクセル・ワード等の初級、秋は中級コースワード・エクセル・パワーポイント等(ワードは「卒業論文」等で即戦力になります。)また適宜インターネットの導入支援も行っています。

親睦旅行(旅に行こう会)・リクリエーション等

4. 学習に関する情報交換

5. 懇親会 お花見、忘年会等も

6. 会内同好会活動 (1)清風亭ネットの会(2)放友会俳句の会など盛り沢山ですが、興味のあるものから始めましょう。楽しく夢中で活動していると、知らないうちに「卒業おめでとう」といわれます。

「百聞は一見に如かず」放友会のホームページをご覧ください。

<http://www.h5.dion.ne.jp/~jinhoyu/>

入会希望の皆様へ！ 会員は、神奈川放友会のホームページ閲覧可能な方を想定しています。更にメーリングリストでの交信が可能な方はより一層歓迎いたします。

文章責任者 神奈川放友会 金田 保男



## うえるかむKanagawa

うえるかむKanagawaは1994年にスタートしました。最近では午前にはNativeの先生に本場の英語を教わるクラス、午後はEnglish Songsと自主学習の時間を持っています。午前には上級・初級とクラスを分け、1時間ずつFree Conversationをします。Nativeの先生も4人目で、現在は加州大出身のDr. Richardにお願いしています。私達がふだん何気なく使っている“英語”が実は“Japanese English”だと教わったり、さらに“このような時にはこういう表現法を”と教わって、“なるほど、ふん、ふん”と思わされたりいつも楽しい教室です。午後は15分間、昔懐かしい、あるいは皆が良く知っている英語の歌を楽しみます。その後、2時間位、初級、中級、上級と3つの部屋に分かれて自主学習をしています。初級は主に旅の英会話と、英語の語順で理解するReadingの方法を勉強しています。中級はInternetでBBC Learningから毎回の担当者がテーマを選んで、そのテーマを中心に読み、解釈、さらに関連した話題を話し合ったり、脱線を楽しんだりしています。上級は在外経験の長い方が多いこともあって、いろいろな報道から

話題を持ち寄り、各自が解説を加えたり講義をしたり、とレベルの高い自主学習の時を持っています。

うえるかむKanagawaは連絡方法として会員が管理する「掲示板」というブログがあり、中級と上級のテーマや資料の連絡もこの「掲示板」を見て、参加者が各自予習しています。

最近では隔月の第1水曜日の午後に“映画で英語を”と「うえるかむKanagawa名画座」を一般公開で開催しています。

英語を楽しみたい方、どなたでもどうぞ、お待ちしております。

石橋正彦



## 韓国語同好会

韓国語同好会は2005年10月1日に発足しました。神奈川学習センターでの面接授業『初歩の韓国語』の受講者有志で立ち上げたサークルです。

翌年、2006年11月29日に本部より学生団体として認可されました。

ハンゲルの勉強は隣接する横浜国大国際交流会館住人・現役の韓国留学生に学んでいます。私達の方からも隣国の若者に日本の良さを知ってもらおうと一緒に三溪園や鎌倉、川崎など案内し、生活様式や伝統文化の紹介も、機を捉え伝えるようにしています。

そして、語学だけでなく韓国朝鮮の歴史や文化にも目を向け身近な隣国と感じられるように努力しています。UA神奈川学習センターだより2008年夏号で『近くて遠い国であった隣国、韓国。近年は韓流ブームに乗って文化交流も盛んです』と紹介しましたが、今回の釜山研修旅行記でも述しましたが、教科書では学ばなかった歴史の重さを痛感する旅でもありました。されど、釜山放送

通信大学で出会った学生たちは底抜けに明るく、情熱的で日本が大好きで両手を広げて私達を歓迎してくれました。交流は今後も続けて行きたいと思っています。

今回の旅行で釜山と慶州の案内をお願いした青年のお母さま手作りの약밥（もち米に棗・栗・干し柿・松の実・しょうゆ・砂糖・ごま油を加え蒸した食べもの）の美味しさが忘れ難く、趙賢淑조현숙先生（横浜国大留学生・淑明大4年生）に料理法を教えてください予定です。

月2回の例会は原則、第1土曜日、第3土曜日の午前中、学習センターで開催しています。韓国に少しでも興味をもたれましたら、ハンゲルを学び、楽しみ、私達と一緒にまた、まだまだ、知らざる韓国に行きましょう！

代表 村田 カズ子（文）

（13ページに関連記事があります。）

## 人間学研究会

成20年度の人間学研究会の活動概要を紹介します。

「歩きましょう」では、毎月1回以上の多数のウォーキング活動を実施しましたので、ここでは活動の詳細の紹介は割愛させていただきます。

例会活動を中心に紹介しますが、特筆すべきは9月に放友会、うえるかむKanagawa、人間学研究会の3サークル共催で「有史以来の情報記録媒体の変遷と文明」というテーマで、講演会を開いたことでしょう。我がサークルの会員以外の方も多数参加されました。

会員の修士論文発表では、「慶応4年 神戸事件を考える」と「井伊直弼の茶の湯-侘び茶への回帰」の2件があり、深い学識の一端を紹介していただきました。また「私の気に入った文平学作品の朗読-心に残った作品より」と題して文学作品の朗読もあり、このような読書の仕方もあることを学びました。さらには会員外の方から「人生の仕上げ-オーシャン・クルーズ」というお話もしていただきました。その他「古代アラビア世界が残るイエメン

の旅」、「放送大学と地域社会との連携についての提案」、「上水道について」、「パチンコ考現学」など、幅広く勉強できました。

人間学研究会の機関誌「せせらぎ」19号を発行しました。

去る3月8日には野外行事として「野草を食べる会」を開催し、会員以外の方も含めて20名が参加され、春の一日を楽しみました。このような行事を今年度も多数企画する計画です。例会や各種行事は公開を原則としていますので、まずは気軽に参加していただき、多数の方が入会されることを期待しております。



伊豆下田への研修旅

## 放送大学神奈川合唱団

神奈川合唱団と一緒に歌いませんか、仲間を募集しています。

合唱指導 新井ゆう子先生(とてもやさしく指導して下さいます)

練習日 毎月 第1、第3水曜日

時間 PM 6時～8時30分

場所 大岡地区センター(学習センターの向い側、すぐ前です)

会費 1ヶ月 2,000円

最近の曲目 「放大学歌」荒城の月、野に咲く花のように、赤いくつ、かあさんのふるさと、千の風になって、大きな古時計等

発表の場 放送大学卒業式(毎年3月NHKホール)神奈川学習センターの入学式(4月と10月)その他拡大の行事等です。

ただ今桜前線北上中です。開花宣言されてから13日もかかって満開を迎え日差しに後押しされて、おしゃれに咲き競っています。

私たちは月2回時間いっぱい歌い、センターを一步出れば三三五五駅迄の6～7分おしゃべりのテータイムです。学校に関したこと、私的なこと、世間話と友だちサロンの出来上がりでこれも又楽しい一時です。

※いつでも見学できます。練習日に直接会場にお越し下さい。

お待ちしております。一緒に歌いましょう。

(合唱団 家田)



放送大学卒業式 学歌演奏

## 資格取得研究会

私たちは、情報交換や学習・見学をとおしてキャリア・アップや就職・進学を目指す、神奈川学習センター唯一の特色ある会です。対象は、看護および福祉とその関連分野全般で、女性、高齢者、障害者と言った視点も持っています。異なった職場、違った資格を持った方同士の交流の場にもしてゆきたいと思えます。また、放送大での学習のすすめ方も話題にし、放送大の有効利用にも取り組みます。小さい会の利点で、直接に情報をお伝えできます。

今まで取り上げた話題として、「思春期保健相談士とは？」で、資格と看護の場の課題などを取り上げました。公開シンポジウム「日本版介護者支援策を考える」や「経験と理論のまじわるところ・・・暴力社会に終止符を！」を聴講しました。例会は、毎月一回、日曜または土曜に行ってい

ます。講演会、シンポジウム等への参加は不定期です。年会費：500円(平成21年度の1年間分)。会員連絡(郵送料)や、例会資料の印刷費用などに充てています。

次回：5/10(例会) 5/24日(講座聴講)

お問い合わせは、

tel: 080-5546-7913 (はこぎ)

e-mail: shikaku@yumesora.net

ホームページ: <http://shikaku.yumesora.net>

(携帯版): <http://shikaku.yumesora.net/m/>



キャンパスネット、wakaba講習

## 拡大かながわレク・サークル

レク・サークルは現在、ダンス部、パソコン部、ウォーキング部、近代文学研究会の4部会で活動しています。心身の健康維持を目標に掲げ、「楽しさを作る」ことを心がけています。会報の名も「楽しいなかま」です。ダンス部は、日頃の練習の成果をフェスタヨコハマで披露しています。

4部会の活動を紹介します。

1. ダンス部＝レクリエーションダンス、フォークダンス、ラウンドダンスの練習をしています。ラウンドダンスは、ステップがソーシャルダンスからきていますが、アメリカ生まれですので解説書は英語で書かれています。拡大の学生にピッタリのダンスだと思いませんか。☆練習日時：第1、第3水曜日。13時～15時 ☆練習場所：神奈川学習センター

2. パソコン部＝個人指導をしていますので、納得がいくまで練習ができます。ダンスとセットで練習などいかがですか。☆練習日時：第1、第3水曜日。15時～17時 ☆練習場所：神奈川学習センター  
3. ウォーキング部＝月1回実施予定 ☆5月：横浜市中区主催のウォークラリーに参加 ☆6月：「東海道五十三次」吉原宿（静岡県）から先へ進みます。

4. 近代文学研究会＝宮澤賢治の作品に取り組んでいます。今までに読んだ作品は、「氷河鼠の毛皮」「よだかの星」「ビヂテリアン大祭」「やまなし」「土神と狐」「鳥の北斗七星」「風の又三郎」「洞熊学校を卒業した三人」「度十公園林」「注文の多い料理店」です。

賢治の作品は、声を出して読むことで作品の面白さ、楽しさ、そしてより想像力をかきたてられると思いますので、朗読に力を入れています。

朗読の勉強にもなりますし、発表者はレジュメを作りますので文章力もつくと思います。何よりも作品の研究が楽しいのです。感想の発言も活発におこなわれ、アツという間の2時間です。日時：第4水曜日 13時～16時

☆場所：神奈川学習センター各部でメンバーを募集しています。体験者大歓迎です。一度遊びに来て下さい。楽しい仲間がお待ちしております。

問い合わせ先 中嶋博子 Fax/Tel:0467-83-8203

## 中国語学習会

中国語学習会は結成12年目を迎えます。現在24名の会員が月2回（第1日曜日、第3日曜日）、熱心に中国語の学習に励んでいます。スタート時からネイティブの中国人講師を迎え、基礎学習から文化、歴史なども取り入れて学習を進めています。

午前中は中級クラスで、前半は中国語のフリートリーキング、後半は中国の大学が外人留学生用に編集した会話教材を使った学習、午後は初級クラスで、会話の基礎となる発音と、放送大学の中国語Ⅰのテキストを使った学習です。どのクラスにも自由に参加できるため、初級クラスの方が中級クラスでヒヤリングの勉強したり、中級クラスの方が初級クラスで発音の基礎を復習など学習方法は多彩です。

メンバーは短期語学留学に挑戦した人や、つい最近では、メンバーの日本語講師として北京に滞在中の方を頼って、語学ツアーにチャレンジと意欲あふれる会員がいっぱいです。一度、気楽に教室をご見学ください。



フェスタで賑わう中国語学習会の飲茶店弁髪帽が似合っています。

## 放送大学ダンスサークル

放送大学ダンスサークルです。

ダンスにも色々ありますが私達がやっているのは社交ダンスです。フォークダンスやハワイアンダンスと違ってパートナーと一緒に踊ることでイメージ的に今いち良い印象を持って貰えませんが社交ダンスは健全で楽しく心身共に青春を甦えらせるスポーツなのです。年齢を重ねてもリズムに乗って自然に体が動くようになるのです。ワルツやタンゴはしなやかにサンバ・チャチャ・ルンバのラテンは若々しく早い動きでスイングして踊ればストレスやメタボ解消に最適です。初心者には皆んなで一緒に出来るスクエアルンバやマンボ等で賑やかにレッスンしています。老若男女問わず健康に良い

社交ダンスを一緒にしませんか、たまにはパーティや旅行も和気あいあいやってます。毎月第二、第四火曜日午後2時から4時までレッスンしていますから一度覗いて見て下さい。

ダンスサークル代表 村上信子



## 中国語コミュニケーション同好会

中国語コミュニケーション同好会。創立は昨年です。その前身は本当の同好会でした。ですから、サークルとしての歴史は浅いのです。活動は月2回、第二、第四土曜日、13時から15時までの二時間、神奈川県学習センターで定期的に学習会を行っています。面接授業等で講義室が取れないときは、大岡地区センターを利用しています。講師はもちろん中国人の方です。優しく親切に楽しく教えていただいています。卒業には外国語の単位は欠かせないと思います。中国語は、発音は難しいかもしれませんが、それさえ克服すれば学びやすい言語だと思います。例えば「参加」や「交通」、「通知」等は、発音は違いますが、意味は日本語と同じです。外国語の学習は競い合う、あるいは教え合う仲間が

いれば長続きし取得しやすいと思います。ぜひ、入学を機会に新しいことに挑戦してみてください。

### 投稿募集

学習センターだよりでは、みなさまの投稿をお待ちしています。

分野は特に問いません、放送大学の学生にとって興味のもてる話題が好ましいです。例として、①私の学生生活 ②私のおすすめ授業 ③放送大学卒業までの体験談 ④学習の失敗談 ⑤旅行の思い出、エッセイなど。字数制限もありませんが、特集を組む都合、長文の場合など、掲載時期、掲載方法についてご相談させていただくことがありますのでご了承下さい。

電子メール: ksupport@u-air.ac.jp (K-サポート事務局)

※電子メールが使えない方は、神奈川県学習センター事務室までお届け下さい。また、編集チームに直接お渡しいただいても構いません。

## 釜山研修旅行記

韓国語同好会 村田 カズ子／石丸迪子

この度、念願にしていた韓国への研修旅行を実現いたしました。

当学習センター所長、濱田先生(4月より本部にご転任)の絶大なご尽力により、釜山広域市北区華明洞(釜山から地下鉄で30分ほど)の放送通信大学とも親しく交流する機会を持つことが出来ました。

濱田所長と同好会々員6名は、2月20日 成田から釜山に向けて出発しました。

その日は、龍頭山タワーに上がり、釜山の町を一望しました。次に、市街地に下り近くの釜山近代歴史館を見学しました。西洋風の洒落た建物は1908年日本統治時代に設立された東洋拓殖株式会社釜山支店だったと。戦後はアメリカが関わり、そして今は一般公開され教育の場に活用されています。

食の文化に触れることも大事なこと。港町釜山の繁華街・国際市場の路地の屋台“ポジャンマチャ”でトッポッキ、パジョンなどを食べ、韓国最大の水産市場・チャガルチ市場ビルの2階『渡辺屋』(奥さんが日本人)という店名に惹かれ、そこで新鮮な海の幸を堪能。美味しい夕食タイムになりました。

二日目の午前中は、釜山広域市退任教師会々長の金洪柱先生と亀峰山の高台にある民主公園に行きました。私たちは、韓国朝鮮の歴史を再び学



金洪柱先生と民主公園に

び直しました。隣接の民主抗争記念館では金河元所長から話を伺い、展示物を目の当たりにしてさらに胸痛む思いをしました。昼食は金所長に参鶏湯の専門店に案内していただきました。街中には母子像や楽器を奏でる人などアート作品が石畳の歩道に点在していました。

午後は地下鉄1号線、2号線を乗り継ぎ(これも研

修目的の一つ)韓国第二の大河、洛東江岸辺に建つ放送通信大学に行きました。大きな建物に先ず圧倒されました。

大学では三時間余りをかけて駆けつけて下さったソウル本部の方が出迎えて下さり、放送大学の機構、内容等映像を用い説明して下さったのですが、言語(基本は英語と難易度の高い韓国語)の相違から濱田所長を除き私たちにはちんぷんかんぷんでした。(勉強不足でごめんなさい)その後、建物の中を日本語堪能な釜山の日本学科の学生ハン ソンジャさん(2歳児のお母さん、主婦)に案内していただきました。



釜山放送通信大学日本学科の学生と一緒に

ソウルでの授業が大型プロジェクターで見られ、しかもその場からマイクを通じて質疑応答もできるという教室には驚かされました。椅子はゆったり、全般に設備がとても良いと感じました。調理やミシンの使える実習室あり、そのほかに視聴覚室や図書館など全館見学させていただきましたが、保育室まであり感心させられました。

韓国の放送大学生は、日本より人数が多く、しかもキャリアアップに利用している人が多いようです。大学内を見学してから日本学科のみなさんと交流の時間を持ちました。自己紹介はお互い相手の言語を用いました。

そのほか、ハングルで創作した当会員の詩を朗読したり、韓国の唱歌『ふるさとの春』を全員で歌ったり楽しいひと時を過ごしました。

夕方からは予定外の二次会となりました。近くのお店に場所を変えてドンドンジュと呼ばれる伝統酒に名物のチヂミを肴にハングルと日本語が飛び交い、大いに盛り上がりました。メールアドレスの

交換や再会を約しての別れは夜になりました。

三日目は釜山から車で片道2時間かけて慶州に行きました。そこは、屋根のない博物館ともいわれる世界遺産に指定されている観光地です。紀元前57年から935年まで、約千年もの間、新羅の都として栄えたのが慶州です。生憎、雨の一日でしたが仏国寺では、日本語の話せる親切なボランティアガイドさんにめぐり会え、丁寧に案内していただきました。吐含山の石窟庵や慶州博物館も見学しました。

慶州では名物のサンパツ(野菜でおかず10種類やごはんを包んで食べる)の昼食を現地の観光客で賑わう有名店で食べました。料理はサンパツのみのお店です。

四日目、帰国の日。2月23日の午前中は各自フリーとし、休養する人、買い物する人、現地の知人に会う人と皆思い思いにすごしました。3名はホテル近くにある釜山鎮市場に行ってみました。

伝統の韓服のきらびやかな生地がたくさん並べられており、市場の周りには韓服を仕立てるお店が軒を並べていました。美しい衣装を見て目の保養をし、刺繍入りのお土産品を手に入れました。



釜山鎮市場通り

その日の午後便にて皆無事に帰国しました。往路の飛行機の所要時間2時間20分、帰路は1時間40分(偏西風に乗るので速い)時差もありません。

以上、初めての研修旅行はとても充実したものになりました。反省すべき点もありますが交流の目的は達しました。この紙面をお借りして、濱田先生に謝意を表します。

## 南関東の学習センターで学んだ15年を振り返って

横満信

わたしが本学に入ったのは平成6年のことでした。それから今まで、あるときは選科履修生として、またあるときは全科履修生として勉強を続けてまいりました。「産業と技術」専攻で産業論を学んでいたときには黒澤一清先生の学問に出会ったことが、また卒業後「生活と福祉」専攻に再入学して社会福祉を学んでいたときには一番々瀬康子先生の学問に出会ったことが、それぞれもっとも大きな収穫でありました。それらについても話りたいことは山ほどあるものの、今回はもっぱら、あちらこちらの学習センターでの思い出かい事柄について振り返ってみたいと思います。

まず埼玉センターですが、ここは、回数としてはそれほど通ったところではありませんでした。基本的には面接授業のときだけしか参らなかつたように思います。しかしそのうちの一つ、「サービス産業論」(伊東光晴先生)は、とても大きな意味を結果的に持つことになりました。わたしは伊東先生に私淑していたこともあり、その授業では一番前に座っておりました。そうしたところ、休み時間にある学生が私のところにやって来て、伊東先生の授業を一番前で聞いている人ということでぜひ連絡を取り合いたいと言われたのです。それは、わたしが本学において初めて得た友人でした。その友人には今も非常にお世話になっていますけれども、もし伊東先生のあの授業がなければ、知り合いになることもなかつたかもしれません。ちなみにその授業は2月の集中講義で二日間に分けて行われたものでしたが、当時伊東先生は郵政省電気通信審議会NTT特別部会

の部会長としてとてもお忙しかつた上にお風邪まで召しておられたようで、一日目の授業は実に辛そうでした。もっとも次の週に行われた二日目の授業のころにはお体の具合もよくなつていて、(高層ビルの途中の階にある)教室の窓からしんと降り積る大雪を見つつ伊東先生の迫力ある授業を受けたことはつよく印象に残っています。定年まではまだ年数があるが3月いっぱいまで本学をやめる、と伊東先生の口からじかに伺って衝撃を受けたこともまた思い出されます。

次は千葉センターについて。こちらは大学本部のある所ですが、わたしの家から行くには運賃にしても時間にしてもあまりにかかりすぎるため、ほとんど参りませんでした。この学習センターは、本部図書館に対する好奇心から何度か行った以外は、(当時日本バレーボール協会専務理事でいらつした)豊田博先生による「保健体育」の面接授業に出るために行つたぐらいしかなかつたのではないかと思います。しかしその面接授業は、排球が好きなたしにとって、豊田先生の口から排球界のいろいろな逸話が聞ける、ほかでは得がたい尊い機会となりました。

次は東京の四学習センターについて振り返ってみます。東京世田谷(東京第一)センターでは、黒澤先生の講演会があつたことなども忘れがたい出来事といえますが、韓国語の面接授業を二度受けたことを書かないわけにはまいりません。このごろ開かれる韓国語の面接授業は、まったくの初心者か、あるいはせいぜい放送授業「韓国語入門Ⅰ」を学んだ程度の学生を相手にしたもののしかありませんけれども、もっと前は、放送授業「韓国語Ⅱ」一

—今の「韓国語入門Ⅱ」に当たるものです—に対応したのも開かれていました。すでに放送授業「韓国語Ⅰ」、「韓国語Ⅱ」を丁寧に学びおえていたわたしは、いきなり面接授業の「韓国語Ⅱ」を申し込みました。そこに来ていた学生は、はっきりいって今更学ぶことなどないような韓国語の達人ばかりで、はたして授業のレベルも相当に高いものとなり、純粋に本学の放送教材、印刷教材でしか学んだことのないわたしはとんでもない目にあいました。けれども受け持ちのキム・テイ先生はとても楽しい授業をする方で、こんなに楽しい授業があつていいのだらうかと思うほどでした。次の年、放送授業「韓国語Ⅰ」に対応した面接授業「韓国語入門」が開かれることを知ったわたしは、またキム先生が受け持ちだということで、(面接授業の受ける順が逆とはいえ)あの楽しい授業はぜひもう一度受けたいという思いから、それも申し込んで受けたのでした。授業が楽しかったのはもちろんですが、9ヵ月前の面接授業「韓国語Ⅱ」に私が出ていたことを先生が覚えていてくださったのにも心を打たれました。

東京文京(東京第二)センターでは、入学一年目の冬学期に受けた面接授業「経済学文献講読」(藤村是清先生)が特に思い出に残っています。その授業は二十世紀を代表する経済学者、シュンペーターの著『経済発展の理論』の核となる部分を輪読するというものでした。平日の夜の時間帯であったこともあって、仕事を終えてから来ている人も多く、まるで夜学のような覚えています。文献講読はあまり人気がないと聞いたことがありますけれども、おもに文献報告と議論とから成る・とても大学らしい授業といえるものであり、私としてはむしろお勧めです(昨年の秋に東京世田谷センターで受けた「政治学文献講読」(近藤敦先生)も楽しくてためになりました)。その授業もせいぜい十人ぐらいしか受講者がいなかったように記憶していますが、人数が少ない分、お互いに親しくなることができました。参加者の顔は今でもかなりはっきり思い出せます。あと、東京文京センターはすぐ近く(茗荷谷駅から歩いてきた道をさらにもうちょっと奥に行った辺り)に占春園という公園があり、わたしは好きでよく足を運んでいました。お昼には拓殖大の学食にもよく参りました。

東京足立(東京第三)センターについては、足立区の文教施設の一部として毎日夜8時まで開くようになってからはそれなりに通うことも増えたものの、それまではあまり通うことのないところでした。この学習センターで一つうれしかったのは、飯山敏道先生が受け持たれた面接授業「地殻から金属を得る背景」で出したレポートについて、この科目は千葉センターでも開いているけれども二つの学習センターの学生百数十人が出したレポートの中であなたのものにもっとも心がひかれた、と赤を入れて返してくださったことです。わたしのような学生でもうまく褒めてくださる先生がいらっしゃるというのは、まことにありがたいことだと思いました。

東京多摩センターはもっとも新しい学習センターということもあり、開所してすぐのところはとにかく新しいということが目につきま

した。あそこは一橋大国立校舎を思わせる外観が好きでした。平成19年度の夏学期からよく通うようになって気づいたのは、事務室が非常に身近に感じられたことでした。どうもそこには、新しい事務員さんのこまごまとしたお気遣いがあずかっていたようです。おかげでそこはとても感じの良い学習センターになっていました。お昼を一橋大の学食でよく頂いたことも思い出されます。

最後は神奈川センターです。ここは所属先であった期間がもっとも長かったこともあり、黒澤先生の講演会、フェスタ・ヨコハマ、学生研修旅行、弘明寺ワークショップ、サポーター・クラブ等々、色んな催しに出ました。どれについても書きたいことはあるものの、ここでは学習センター便りについて振返ってみます。もうかなり前のことになりすけれども、私はつごう二度ばかり、学習センター便りに駄文を寄せたことがありました。一度目は、本学で用意されているさまざまな科目のうちでそれまであまり馴染みのなかった分野のものに踏出すための・私なりのやり方について紹介したものでした。二度目に寄せたのは読書感想文で、経済学の新しい考え方について書かれた啓蒙書を読み、感じたことを綴ったものでした。そのころの学習センター便りは編集の方が(取材等にも)かなり力を入れて作っておられ、クォーターに出される各号はいずれも中身がとても豊かであったことを記憶しています。ただその後、いろいろな理由からお休みに入らざるをえなくなったということでした。それが今またこうして復刊されたのは実に喜ばしいことです。しかし喜ばしいと言いつつ、この原稿を書きすめる中に一抹のさびしさを覚えてしまうのは、やはり、わたし自身が3月までで南関東を離れることになるからでしょうか。思えば、去年の夏から加わったサポーター・クラブの活動は、結果的に神奈川センターへのごく細やかな恩返しとなりました。

平成6年の入学以来、わたしの本学での生活は、南関東、なかなか東京、神奈川の5学習センターを足場として繰り広げられてきました。それぞれの学習センターにてこれまで数々の煌めく思い出を下された皆様には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。この記事が皆様の目に触れるころ、わたしは鹿児島センターの新しい学生として一歩を踏み出していることと思います。

## 編集後記

4月に渡辺新所長をお迎えしました。着任のご挨拶にありますように、脳の活性化と健全な肉体の維持について触れられております。熟読して、これに沿いたいものだと思います。濱田所長には大変お世話になりました。千葉本部での更なるご活躍をお祈ります。

「春だより」が皆様の目に触れる頃には、センターの前の桜の咲き具合はどうでしょうか。編集体制も強化され、次号からの企画に新鮮味を出すべく早速に取り組んでまいります。

(S)

UA神奈川学習センターだより編集部

佐々木、笠井、星、赤松、家田、木下、菅崎(機関紙チーム)  
垣谷(K-サポート) 福島(学習センター事務室)

## 学習センターからのお知らせ

### ◆面接授業追加登録について◆

平成21年度第1学期面接授業科目の追加登録受付は下記のとおりです。(教養学部生)。  
追加登録の手続き方法は、「平成21年度第1学期面接授業時間割表」または「各学習センター」へお問い合わせください。

#### 【第1次追加登録】

空席発表 :4月15日(水)

追加登録期間:4月17日(金)～24日(金)

対象クラス :4月25日(土)以降に開始する空席の生じているクラス

#### 【第2次追加登録】

空席発表 :6月4日(木)

追加登録期間:6月10日(水)～19日(金)

対象クラス :6月20日(土)以降に開始する空席の生じているクラス

### ◆通信指導について◆

平成21年度第1学期放送授業の「通信指導」提出期間は下記のとおりです。5月8日(金)までに通信指導が届かない場合は、大学本部(043-276-5111)に連絡してください。

提出期間:5月25日(月)～6月9日(火)大学本部必着

※ 提出期限を過ぎて到着したものは受理できませんので、余裕をもって送付してください。

※ 通信指導の評価結果により、当該科目の単位認定試験の受験資格が得られます。

### ◆学生募集について◆

学ぶ喜びをより多くの方々に知っていただきたいと思い皆様のご家族・ご友人・知人に放送大学の魅力や利用方法をご紹介下さるようお願いいたします。

【平成21年度第2学期入学(10月入学)の教養学部生、大学院修士選科・科目生】

募集要項配布期間:6月15日(月)～8月31日(月)

出願受付期間 :6月15日(月)～8月31日(月)

【平成22年度第1学期入学(4月入学)の大学院修士全科生】

募集要項配布期間:6月中旬～9月上旬

出願受付期間 :8月21日(金)～9月11日(金)

ご家族・ご友人・知人の方を「神奈川学習センター」にご紹介下さい!